

H25.6.8

困った行動への対応



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
東京医大卒業後、大阪大第二内
科入局。平成7年、尼崎市で「長
尾クリニック」を開業。外来診療
から在宅医療まで「人を診る、総
合診療を目指す。医学博士。近著
「平穏死・10の条件」「胃ろうと
いう選択、しない選択」はいずれ
もベストセラー。関西国際大学客
員教授。54歳。

在宅医療に従事している
と、何百軒かに一軒の割合で
いわゆる「ごみ屋敷」に遭遇
します。ところが狭しとモノが
あふれ、地層のように堆積し
た上を歩くこととなります。
その地層が通路の壁となって
いる家、小動物が化石のよう
に埋もれている家、真新しい
排泄物を踏んでしまう家まで
さまざまなパターンがありま
す。

ごみ屋敷と火の不始末

何十匹のペットが生息する
「動物屋敷」、趣味で収集し
たお宝に埋もれている「お宝
屋敷」もあります。本人にと
ってはお宝でも、第三者にと
っては、ごみの山。その主人
を調べてみると、かなりの確
率で認知症であることは、経
験ある在宅スタッフなら知っ
ています。



「認知症ケア」シリーズ⑫

「断捨離」という言葉があ
ります。たしかに、捨てるこ
とは意外と難しい。年を取れ
ば取るほど、荷物が増えてい
くのが普通の人間でしょう。
駅でもらったティッシュペー
パーを「もったいない」とた
め込んでしまう私もごみ屋敷
予備軍だと自己診断していま
す。

断捨離 部屋の整理整頓とともに生活に調和
をもたらしつつとする生活術。捨てることで、モ
ノへの執着から解放され、身軽で快適な人生を手に入
れようという考え。単なる片づけとは一線を引く。

認知症の人に「なぜガラク
タを集めるのか？」と質問し
ました。すると「もったいな
い」「持っているのと落ちてく
から」とのこと。そう認知症
の本質は不安でしたよね。そ
ういえば中年以降になると水
を飲んでも太るといふ人がい
ます。これは儉約遺伝子のス
イッチが入るからです。わず
かなエネルギーでも脂肪とし
て蓄えようという体質に勝手
に変わるのです。

火の不始末も近所の人にと
っては大変気になるところで
す。水道や電気をつけっぱな
しにしている認知症らしき人
を見ると、火は大丈夫？と心
配になります。認知症の人
は、火の存在自体を簡単に忘
れがちです。

ひょうい